

平成 28 年 5 月 30 日

各 位

会 社 名 トレックス・セミコンダクター株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 芝 宮 孝 司
(コード番号：6616 東証第二部)
問 合 せ 先 常務取締役 木 村 浩
事業戦略室長
(T E L . 03-6222-2875)

「当社取締役会の実効性の分析・評価」結果の概要について

当社グループは、「常に問題に対して創意と熱意を持って確実に取組み、そして品格を高め、お客様の信頼を得よ」を社是として掲げ、設立以来、アナログ電源 I C に特化し、「Powerfully Small!」をモットーに製品の開発・製造・販売を精力的に行ってまいりました。

また、「常に豊かな知性と感性を磨き、市場に適応した価値ある製品を創出し、豊かな社会の実現と地球環境の保全に貢献するとともに、私たちの事業に携わるすべての人々が共に繁栄する」ことを経営理念といたしております。

上記の社是及び経営理念に則り、ステークホルダーである株主、顧客、取引先、従業員及び地域社会との関係を常に意識した、ぶれない経営を実践するにあたり、当社は、コーポレートガバナンスを経営上の重要課題と位置づけております。

そのためには、各ステークホルダーに対して透明性と説明責任を果たし、また法令を遵守し、道德・企業行動基準に基づいた誠実な経営を行うことを基本としており、コーポレートガバナンスに関する当社の基本的な考え方、枠組み及び運営指針を『コーポレートガバナンス・ガイドライン』として公表しています。

この度、『コーポレートガバナンス・ガイドライン』の運営指針に基づき、2015年度における当社取締役会の実効性を分析・評価いたしましたので、その結果の概要を以下の通り開示いたします。なお、当社の『コーポレートガバナンス・ガイドライン』につきましては、当社のホームページにて公表しておりますのでご参照ください。

- ・『コーポレートガバナンス・ガイドライン』

(https://www.torex.co.jp/file/jp/ir/vision/governance/20151214_Corporate_Governance_Guideline.pdf)

1. 分析・評価方法

当社取締役会は、2015年度における取締役会の実効性を分析・評価するため、2016年4月から2016年5月にかけて取締役会事務局が作成した取締役自己評価調査票に基づき、各役員が自己評価を実施し、その結果について2016年5月の取締役会で報告があり、議論を行いました。

2. 評価項目

取締役自己評価調査票の大項目は以下の通りです。

- (1) 取締役（会）の役割・責務
- (2) 経営方針の浸透
- (3) ステークホルダーとの対話・開示
- (4) 取締役会等の機関設計・構成
- (5) 任意の仕組みの活用・連携
- (6) リスクの評価と対応
- (7) 取締役会の実行性・活性化
- (8) 経営陣・役員との関係

3. 分析・評価結果の概要

各役員による取締役会の実効性にかかる自己評価の結果、「経営陣・役員との関係」に係る評価項目以外については、「問題なくできている」と評価するとともに、すべての役員が、当社取締役会の実効性の一層の向上のため、多数の建設的な提言をあげました。

この評価結果を踏まえ議論した結果、2015年度の実効性は「おおむね有効であった」と結論付けました。

当社取締役会は、多くの取締役が「経営陣・役員との関係」の評価項目について、改善の余地が大きいという自己評価を行った要因として、2015年度は、役員向けのトレーニングの計画、取締役候補者の指名や報酬制度の策定途上にあったことから、取締役会における一層の議論の必要性を認識した取締役が多かったことによるものと分析しています。

なお、当該取締役候補者の指名および報酬に係る制度は、任意の指名報酬委員会を設置するための制度設計の詳細について検討を行っております。

4. 提言事項

上記の自己評価において各取締役からは、経営計画等の要因分析等の強化、取締役会による取締役の業務執行状況へのモニタリングの強化、ESGへの取組み強化について取締役会で一層の議論を図ること、取締役会資料についての改善事項などが提言されました。当社取締役会は、これらの提言について、議論を重ね、取締役会の実効性の向上を図ってまいります。

以 上